チェックテスト　解答
5 章　治療への応用~事例を通して~

1 身体障害（p.317）

①
麻痺側
②
非麻痺側
③
被殻
④
機能的把持装具，安静時スプリント
⑤
前方移乗
⑥
背側
⑦
等尺性収縮

2 精神障害（p.327）

①
作業活動，治療的態度，場・場所，個人か集団か，時間（実施時間・頻度・実施の期間）
②
この時期の患者には，安心感と安全感を保証することと，現実世界への移行を少しずつ進めていくことが必要となる。また身体的エネルギーが低下し，意欲や自信も失っている。その一方で，何かしていないと落ち着かない時期でもある。したがって，なじみのある活動，対象者が簡単に行えそうと感じる活動，現実感や達成感が得やすい活動，集中できる活動などが適切である。

3 発達障害（p.339）

①
日常的に行われることであり，それらを通して環境とかかわり発達する。
②
「目的としての作業」と「手段としての作業」がある。
③
子どもが達成すべき目標としての作業である。これは「生活を構成する作業」ともよばれ，生活のなかで行われる作業である。
④
治療目的を達成するための媒体としての作業である。ある特定の機能改善や機能獲得を目的として実施されるもので，上肢機能の発達を獲得するためや姿勢バランスを獲得するための遊びなどが挙げられる。
⑤
痙直型，アテトーゼ型，失調型，弛緩型，混合型
⑥
四肢麻痺や両麻痺，片麻痺
⑦
主に ADL，遊び・余暇，学業・仕事から構成されている。
⑧
筋緊張，姿勢反射，粗大運動，巧緻運動などの運動機能や感覚調整，触知覚，空間知覚などの感覚・知覚・認知機能，情緒，意欲，自尊心などの心理機能，二者関係などの社会機能で構成されている。
⑨
DENVER II デンバー発達判定法，津守式乳幼児精神発達診断法，遠城寺式乳幼児分析的発達検査法，新版 K 式発達検査，KIDS（キッズ）乳幼児発達スケール

⑩
子どもは，離乳期から経口摂取を段階的に練習し，嚥下，捕食，押しつぶし，咀嚼と口腔機能の発達を獲得し，その後，手づかみ食べ，スプーン，フォークなどの食具操作を獲得し，自食が可能となる。

4 高齢（障害）者（p.352）

①
筋萎縮，関節拘縮，骨萎縮，心機能低下（心拍出量の低下），起立性低血圧，誤嚥性肺炎，血栓塞栓症，うつ状態，せん妄，見当識障害，圧迫性末梢神経障害，逆流性食道炎，尿路結石・尿路感染症，褥瘡，等（公益財団法人長寿科学振興財団 HP より）
②
典型的な症状に当てはまらないことが多い，集中力の低下，精神運動遅延が目立つ。健康状態が悪く，気分の低下，認知機能障害，意欲低下がみられる対象者ではうつを疑うべきである。
③
一人ひとりの差が大きい。全般には，予備力が低下し，回復しにくく適応しにくい。また，変化を嫌う。病状や薬の効果が不安定であり，急変しやすく重篤になりやすいので，注意を要する。
④
できていたときのイメージを壊さず，自己効力感や自尊感情をいかに高めるか。
⑤
老老介護，介護力の低下，家族機能の低下，核家族化，高齢社会
⑥
心身の機能維持は生活障害と密接な関係がある。生活の張り合いや活動参加に目的を失うと作業継続が困難となり，生活障害につながる危険があることへの理解が重要である。
⑦
受動的なものから主体的なものへと発展させる。
⑧
長い人生のなかで接点のあった活動を探る。チェックリスト活用以外にも行動や表情の観察，傾聴による聞き取りなども重要である。
⑨
余暇活動や生活関連活動，また仕事や役割的な活動に関するものの果たす役割が重要となる。また作業をどう応用するかが鍵になる。
⑩
地域特性を踏まえ，住民とともに多職種で，地域のインフォーマル資源，潜在的な人的資源を活用することが必要である。

5 認知症高齢者（p.365）

①
前頭葉：判断，思考，計画，企画，創造，注意，抑制など
側頭葉：言語理解，記憶，感情調整，聴覚など
頭頂葉：体性感覚，空間認識，立体認識，計算認識など
後頭葉：視覚
②
中核症状：脳の器質的障害による認知機能の低下
周辺症状（BPSD）：認知機能障害の直接的な影響やそれに心理的要因，環境要因が加味されて現れる幻覚，妄想，うつや徘徊といった精神や行動の異常

③

作業活動レベルの例（Pool Activity Level）

	活動レベルの内容	活動の特徴
計画活動レベル	軽度認知障害の活動レベル。活動の完了に向けた計画立案と遂行は可能。問題が生じた場合，支援が必要な場合がある	ゴール指向的活動，問題解決の行動，複数ステップの活動
探索活動レベル	中等度認知障害の活動レベル。慣れた環境で，よく知っている活動は，遂行できる。活動の結果よりも遂行に関心をもつ	ゴール指向的活動困難。活動の体験を楽しむ。2～3ステップの活動
感覚活動レベル	重度認知障害の活動レベル。活動中の感覚や身体の反応に関心があり，遂行についてはあまり考えない	身体感覚に反応。シングルステップの活動
反射活動レベル	最重度認知障害の活動レベル。周囲の環境に気付かず，身体自体の意識が低く，反射的な反応	反射的反応。自己と他者との認識があいまいで，ボディーランゲージで社会的交流は可能

[Pool J：プール活動レベル　認知症をもつ人の活動評価から個別支援まで　チームでよりよいケアを実践するために(小川真寛 訳)，12-19，38-39，134，医歯薬出版，2017.より引用]